



## 南アルプス山岳図書館 だより 2011.2

ファンクラブのみなさま、こんにちは。お元気ですか。

気象庁は、昨年と同じ2月25日、関東で「春一番」が吹いたと発表。暖かい季節も間近。「弥生」3月が到来する。「弥生」とは、草木のいよいよ生い出る（おいひずる）意の「いやおひ」の転化が語源とのこと。その名の通り、草は萌え、木は芽吹き、百花繚乱して、鳥の声も高まる季節。万物が躍動するこの時期。しかし、連日報道されるN.Z地震の恐怖、噴火、鳥インフルエンザ、いつにない豪雪の被害など被災された方々を思うと、心が暗くなります。でも、季節が移り変わるように必ず「春」が来ることを信じて頑張ってもらいたいと、陰ながらエールを送り続けていきたいと思っております。

河野正浩さん（島田市）の原稿をご紹介します。

### 「2010.11.28 沢口山登山道整備作業に参加して」

南アルプス山岳図書館の遠藤さんから、10月秋だよりと共に「沢口山登山道整備」のお知らせが同封され、送られてきた。山に登り始めて6年。すっかり山にのめり込んだ私は、以前から山に関わる無償の仕事がしたいと思っていたので、すぐに日時を確かめ、空いていることを確認すると、いや、その日は用事があっても参加すると心に決めた。当日私は一人で参加した。いつもは楽しい図書館も、初めて会う人たちと共に作業するとあって、少し緊張した雰囲気だった。まず一人一人自己紹介をし、責任者の松本さんから作業内容の説明があり、その後図書館の前で記念撮影。その頃にはだんだん緊張も解れ、「いざ、出発！」となった。まず初めに登山道入口から、自分の背丈ほどの杭を担ぎ、登山道を登った。500Mほど登り、以前杭がありロープが張ってあった所に置いた。その所はその後、松本さんたちが杭を打ち直し、再びロープを張るということだった。そして次の作業場所、沢口山直下の階段までみんなで登った。途中見晴らしの良いところで休憩をとり、その都度、辺りの景色の説明や木々の名前など、松本さんの説明が加わり、色々教えていただいた。「みずならの木」を過ぎ今回のメインの作業場所に着いた。松本さんは、倒れた大木をチェーンソーのエンジンを轟かせて切っていた。そして私たちは、金丸さんの的確な指示の元で、傷んだ階段を直した。まずネジを外し、杭を抜き、整地をし、土を固め、また杭を打ち直し階段を復旧させていった。私は仕事から杭打ちなどは慣れているが、初めての作業という方々も、それぞれ自分の出来る事を一生懸命やった。1時間位作業し、沢口山山頂にてお昼となった。皆、持参した食事をとり午前中の作業の疲れを癒した。午後も引き続き階段の復旧作業を行った。作業も終り、なかなかしつかり出来た階段に皆満足し、下山が始った。そして今日のもうひとつの楽しみ、翠紅苑にて入浴、そして図書館にて猪鍋と剣岳の生田信氏の孫、生田八朗さんの山談議が待っているという事だけあって、皆の下山ペースが上がったようにも思えた。残念ながら私は、その後の付き合いは出来なかったが、きっと温泉で今日の作業の疲れを癒し、猪鍋でお腹を満たし、生田さんの話で心が満たされたと思っています。私は一人、1日の作業がすごく良い思い出となり、心が満たされ、紅葉の終わりがけた寸又の道のりを家へと向かった。

去る11/28、25名(男19・女6)の方々に沢口山登山道整備を実施。地元の方を初め、横浜・浜松・静岡・焼津・藤枝・島田・御前崎・佐久間と集られ、早朝から夕暮れまでご協力いただきました。男女問わず、力仕事を黙々と行ってくださり安全な山行を願う、山を愛する方々の思いは皆同じであることを痛感しました。ゆっくりと温泉に浸かり、鍋を囲んでの山談義は、いつの間にか一つ家族のような温ったかい雰囲気でした。これからも、このような会が定着していきますように、皆様のご参加をお待ちしています。お疲れさまでした！



「みずならの木」の前で山のなかまと記念撮影

